



「がま口上」全国大会終了

当研究会主催の第一回筑波山がまの油売り口上全国大会が九月三十日、ワーブステーション江戸にて開催され、中村座を借り切つての盛大な大会となりました。当研究会からは、五名が出場し好成績を修めました。



全国大会出場体験記

池田 はま江

かわら版で、大会出場者募集をしていることを知りました。

私は全国より出場するベテランの方々の口上を聞いてみたいと思っていました。その時、先輩の方より、申し込んで自分の力を試してみてもどうかと、力強く励まされました。

私は、林先生のがま口上講座を、平成十一年十一月十一日に初めて受講させていただきました。まだ二年足らずの未熟者。自信が無く不安で、申込み締め切りぎりぎりまで迷いました。

出場するからには頑張らねばと思ひ、出場会員さん数人と共に、勉強に励みました。林先生より、口上上達の心得をいただきました。

一、口上の語りは、相手に話しかけるように。相手呼び止め、聞きたくなるように。
二、ここは聞かせどころと思つたら、ゆつくりと相手に、納得させるように、語りかける。

三、寅さんのように、歯切れ良く、間を取る。私には三点のうち一点も自分の身についておらず困りましたが、仕事、家事に加えて夫の母親

の入院のため、病院の往復と、三つの忙しいの中、自分なりに力を出し切つてやってみようと、練習を積み重ねました。

さて、月日のたつのは早いもので、九月三〇日大会当日。ワーブステーション二階の受付には全国より沢山の人が集合されておりました。皆、着替えて、キリツと衣装を身につけ、張り切つた雰囲気包まれていました。一七名の出場者のうち、女性二名と聞きました。出場順番を決める抽選が始まりました。ハラハラドキドキ、私は八番を引きました。

中村座控室に入ると、ベテランの女性の方が入つてくれました。会場に入りますと、立派な看板・横断幕が飾られていました。

開会の言葉が始まり、審査委員の先生方より注意事項。続いて清水さんによる選手宣誓。そして、一番の方より一人五分の予選が始められました。

緊張し、ドキドキの雰囲気の中、小宮山さんの柔らかな、優しい声の司会のもとに迷い出され、がま研究会のボランティアの方々による道具のセツト。『これ運びます。』『頑張ってください。どうぞ！』と優しく声をかけていただき、私の出番です。落ち着けと心に言い聞かせて舞台上にりました。心臓がドキドキして、お立ち会いと始まりました。私は私なりに、日頃の成果を發表しようと、一生懸命やりました。

終わりますと、『ご苦労様でした。』『よくできました。』と、ボランティアの方々から声をかけていただき、心の緊張がほぐれる思いがしました。優しい言葉をかけていただき、本当にありがとうございました。

予選一七名全員が終了し、決勝出場の六名の発表に入りました。私の名前が呼ばれビックリ、夢ではないかと思ひました。『少し休憩を取つて、本戦に入ります。』と言われました。再度抽選が行われ、私は一番を引きました。

林先生を始め、先輩の方々より私の不足点はこの取り方、説得力がないところと聞いていただきました。まだまだ力不足、一本勝負、力の限りやるだけだ、頑張ろうと思ひました。

トップを切つて舞台上上がりました。落ち着いてと、動揺する心に言い聞かせ、平常心でとにかく一生懸命一〇分間の口上をつとめようと思ひました。・・・あとは結果を待つだけです。

六名全員が終了し、審査員より各賞の発表が始まりました。

大賞には、埼玉県の高梨様が輝きました。見事な話芸を演じて聴衆より大きな拍手を受け、実に見事な大道芸の原点に感服しました。立派な口上を目前で聞かせていただき、勉強になりました。私は準大賞と発表され、大きなトロフィーを手にしてビックリしました。内容が伴っていないのではないかと、本当にこのような賞に該当するのかわかりませんでした。

これも皆、林先生を始め、諸先輩方、研究会のボランティアの方々、又共に勉強に励んだ会の友人、会員の大きな力無くしては手にすることは出来ません。私一人の成果ではなく、皆様の陰の力無くては手に出来ないものと思ひました。紙上を持ちまして、ご指導くださった皆様により感謝の意を表します。本当にほんとうにありがとうございました。

最後に、本年もがま口上研究会の益々の発展、又、夢に向かい、ガマ口上上達に一生懸命頑張っていきたいと思ひます。どうぞよろしく御願ひいたします。

最後に私の住む水海道地区にも郷土芸能ガマ口上を伝承し、一人でも多くの人に聞いていただきたいと思ひます。どうぞご協力をよろしく御願ひいたします。



「がま口上」と私

村竹 儀昭

私が「がま口上」を初めて生で聞いたのは平成9年、国際協力事業団に勤務していた現役の時でした。宇野先生も同じ職場に勤務しておられ「がま口上」をされると聞き、私の担当している世界各国から来ている外国研修員に聞かせてやろうと思いい、全部英語に翻訳して、宇野先生の口上に合わせて同時通訳的に外国研修員に見せたのです。初めて見る聞く日本文化の「がま口上」に六〇名の研修員が大喜びしたのは言うまでもありません。私自身もこんな素晴らしい芸が身近にあるとは全く思いませんでした。

それから暫くして私が定年退職して一年過ぎた平成十二年に、宇野先生から「がま口上研究会」があることを聞き、お誘いを受けました。最初私は芸事には向いてないと思っておりましたが迷いましたが、冒頭で述べたように最初に聞いた印象が残っておりまして入会した次第です。

それからは、家内も呆れ返るほどの様子で、家にいるときは所構わず大声を出すので、マシヨンの方が心配して「お宅のご主人は何かあったのですか?」とか「少し頭がおかしくなったのでは?」等の風評をよんだものでした。特に全国大会に出場しようと決めたときからは、車に乗っても大声を出すし、寝言で夜中にも大声を出さるものですから、家内にもさんざん小言を言われました。

大会に出るといったものの入会してちょうど一年でしたので、自信のかけらもありませんでしたが、一ヶ月半ばかり土浦の桜川の土手で毎朝大声を出して練習しましたら、少し楽に声が出るようになりましたので、気持ちも楽になりました。

私の小道具は、古着屋で袴と上着を千五百円

で買い、がまの絵を自分で描きました。箱も古物屋で八百円で買い自分で塗り直し鏡をジョイフル本田で二千八百円で買って張り付けました。一番高いのは浅草で六千円で買った刀でした。幟と演題幕は古いシーツを利用して下手ですが全部自分で描きました。従って、衣装・小道具等に掛けたお金は締めて一万千円。もう少し年が入って上達したら良いものに代えたいと思いますが、当分はこれで我慢しようと思えます。さて、大会当日ですが、私は仕事柄人前で話をする機会は多いし、ゴルフも三十年間やっていますので、プレッシャーには強いつもりでおりましたが、予選前のあの雰囲気はやはり独特のもので、いささか緊張致しました。

幸いにも決勝には残れましたが、出だしのタイミングがずれて思うような演技・口上ができず反省している次第であります。次回の大会に向けて仕事の合間に鍛錬を重ね、個性的な口上とアイデアのある小道具を画策している所であり

文芸コーナー

口上をとおして結ぶこころの和

がま 仙人

でまかせの 口上に負い目 感じつつ

客の笑いに 安堵しつおり

がま 小町

かわら版原稿随時募集中

所感・文芸作品・カットなど
何でも可。事務局までどうぞ。



感謝のことば

第一回筑波山がまの油売り口上

全国大会実行委員長

宇野 昭

会員の皆様にはますますご清祥のこととおよろこび申し上げます。さて、昨年九月三十日伊奈町南太田のワーブステーション江戸で行われた「第一回筑波山がまの油売り口上全国大会」(主催・筑波山がまの油売り口上研究会、後援・ワーブステーション江戸)の開催に際しましては、それぞれご多用の中、当日早朝より一日中、本大会の実行委員として、ご協力をさせていただきました。誠にありがとうございます。おかげさまで大会も大成功に終わることができ、ご厚情心からお礼申し上げます。また、この大会を陰で支えてくださった家族の方々にも感謝でいっぱい입니다。次回の全国大会にもご都合のつくお方は、なにとぞご協力の程よろしくお願いいたします。それでは又元気でお会いできることを楽しみにしております。気候不純の折から皆様のご自愛をせつに祈ります。まずは「がま研かわら版」をとおして、とりあえずお礼のご挨拶まで。

編集後記

今回は初の全国大会出場体験の玉稿をお寄せいただきました。皆様も一緒にハラハラドキドキしていただいたのではないしょうか。

冬季オリンピックは判定等を巡って大揺れのうちの閉幕でしたが、多くの場面で順位を越えた素晴らしい感動を味わいました。アスリート達の鍛え抜いた無駄のない動きのなせる業と思えます。精進することの大切さをひたすら実感。春の足音を感じながら皆様の益々のご健勝とご研鑽を期待しております。

編集 子